

施設系サービス・（看護）小規模多機能に勤務する

介護支援専門員を対象にした

アンケート調査結果報告書

【概要版】

令和7年3月

< 目次 >

I 調査概要	1
II 調査結果	2
（1）所属事業所の種別	2
（2）介護支援専門員と兼務している職種	2
（3）介護支援専門員としての経験年数	3
（4）ケアマネジメント業務を行うための適正な時間確保	3
（5）担当件数に対して十分にマネジメントできる時間確保	4
（6）困ったときに相談できる相手の有無	4
（7）特に連携が必要と考える職種（機関）	5
（8）作成したケアプランが現場で活かされているか	5
（9）介護支援専門員として“やりがい”“喜び”を感じる時	6
（10）業務の中で自身に足りないことや苦手を感じていること	6-7
（11）法定研修以外での研究参加の機会	7
（12）スキルアップに繋がる研修があれば参加希望の有無	7
（13）どのような研修があれば参加したいか	8
（14）事業所の介護支援専門員として取り組んでいること	8-13

I 調査概要

■調査の目的

福岡県介護支援専門員協会職域部会（施設委員会）では、居宅介護支援・介護予防支援以外での業務に従事する介護支援専門員が抱える「日常業務での困りごと」や「課題」などについて現状の把握をしていきます。施設系・多機能系に勤務する介護支援専門員が参加しやすい研修機会確保や課題収集した内容を分析し介護支援専門員にとって有益な活動に繋げていくことを目的としています。

施設系・多機能系に配置される介護支援専門員の役割は今後も益々大きくなり、重要な役割を担うことと考えております。

■調査対象者

福岡県内の施設系サービス、多機能系サービスに介護支援専門員として勤務するすべての方

■調査方法

WEBによる回答 ※二次元コードを読み取り

■回収状況

調査依頼数→2029事業所 調査回答数→438事業所 回答率21.5%

■調査項目

- 1, 所属事業所の種別
- 2, 介護支援専門員と兼務している職種
- 3, 介護支援専門員としての経験年数
- 4, ケアマネジメント業務を行うためにどれくらいの時間が必要か？
- 5, 担当件数に立ちして十分にマネジメントできる時間が確保されているか？
- 6, 困った事があった時の相談相手は？
- 7, 特に連携が必要と考える職種（機関）
- 8, 作成したケアプランが現場で活かされていると感じているか？
- 9, 介護支援専門員として“やりがい”“喜び”を感じる時
- 10, 業務の中で自身に足りないことや苦手を感じていること
- 11, 法定研修以外での研究参加の機会は？
- 12, スキルアップに繋がる研修があれば参加したいか？
- 13, どのような研修があれば参加したいか？
- 14, 事業所の介護支援専門員として取り組んでいることは？

■調査結果の見方

比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
このため、百分率の合計が100.0%にならないことがあります。

II 調査結果

(1) 所属事業所の種別について

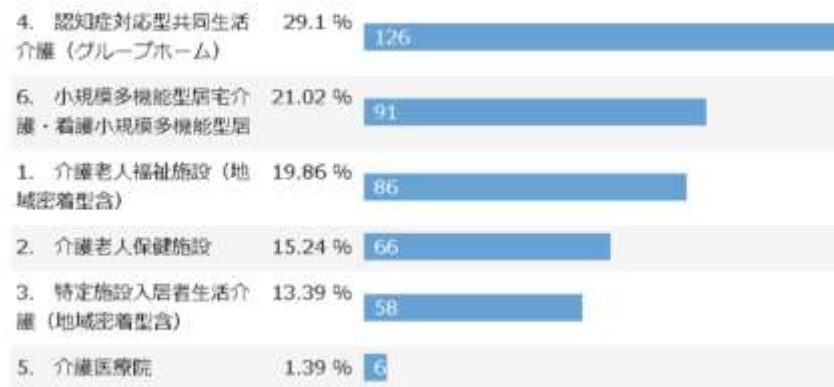
問1) あなたの所属している事業所の種類を教えてください。

- ①介護老人福祉施設（地域密着型含） ②介護老人保健施設 ③特定施設（地域密着型含）
④認知症対応型共同生活介護（グループホーム） ⑤介護医療院 ⑥小規模多機能（看護含）

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）からの回答が全体の3割程度だった。

次いで多機能系サービス、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、特定施設、介護医療院の順の回答率となった。

問1) あなたの所属している事業所の種類を教えてください。



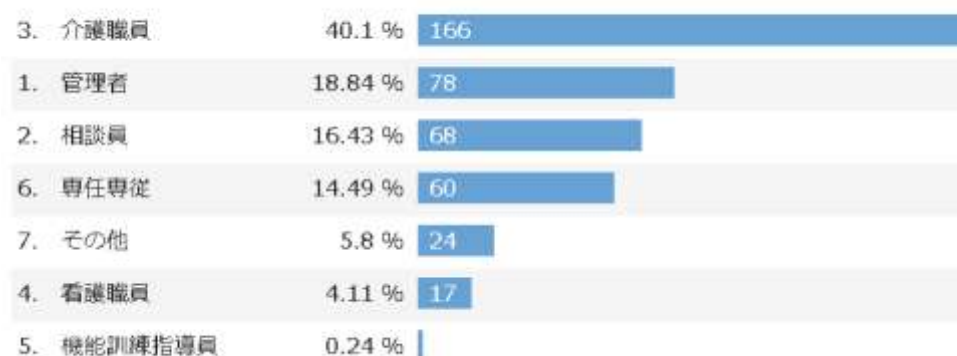
(2) 介護支援専門員と兼務している職種について

問2) 介護支援専門員と兼務している職種があれば教えてください。

- ①管理者 ②相談員 ③介護職員 ④看護職員
⑤機能訓練指導員 ⑥専任専従 ⑦その他

介護支援専門員との兼務者の割合では、介護職員と兼務する介護支援専門員が全体の4割を占めている。次いで管理者、相談員、専従、その他、看護職員、機能訓練指導員の順の回答率となった。介護職員との兼務が多い。

問2) 介護支援専門員と兼務している職種があれば教えてください。



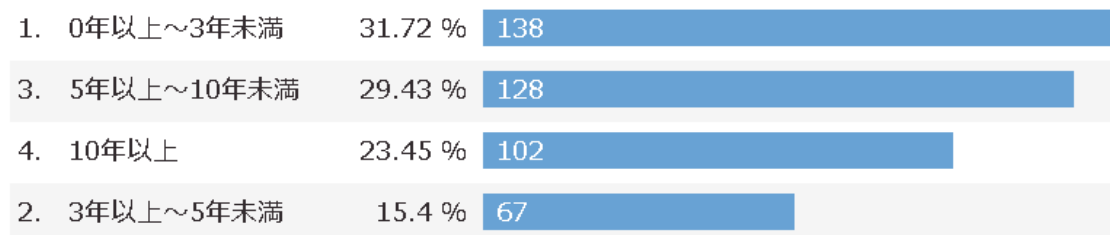
(3) 介護支援専門員としての経験年数

問3) 現在の施設での介護支援専門員経験年数を教えてください。

- ①0年～3年未満 ②3年～5年未満 ③5年～10年未満 ④10年以上

本アンケートの回答者は、0～3年未満の介護支援専門員が全体の3割を占め、次いで5～10年未満、10年以上、3～5年未満の順の回答率となった。
比較的、経験年数の浅い介護支援専門員からの回答を得ている。

問3) 現在の施設等での介護支援専門員経験年数を教えてください。



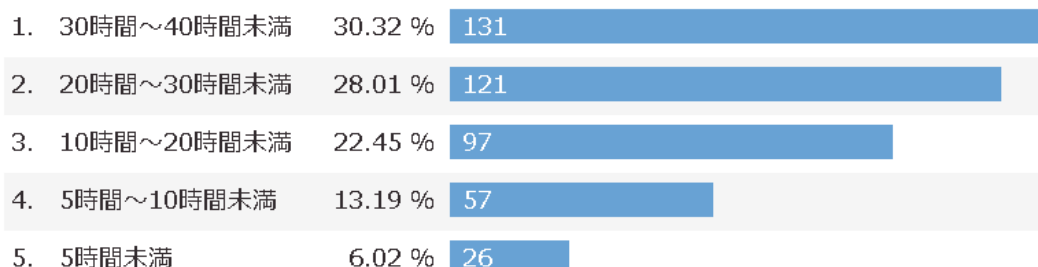
(4) ケアマネジメント業務を行うための適正な時間確保

問4) 介護支援専門員の業務を行うために1週間にどれくらいの時間が必要ですか？

- ①30時間～40時間未満 ②20時間～30時間未満 ③10時間～20時間未満
④5時間～10時間未満 ⑤5時間未満

対象人数によって異なると考えられるが、多くの介護支援専門員は1週間のうち20時間～40時間程度をケアマネジメント実施する時間として必要であると全体の約6割の介護支援専門員は考えている。

問4) 介護支援専門員の業務を行うために1週間にどれくらいの時間が必要ですか？…



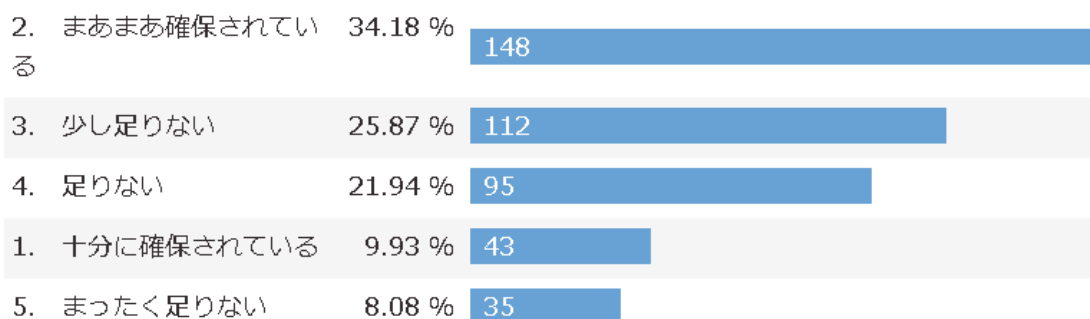
(5) 担当件数に対して十分にマネジメントできる時間確保

問5) 担当件数に対して十分にマネジメントを行う時間が確保されていると感じますか？

- ①十分に確保されている ②まあまあ確保されている ③少し足りない
④足りない ⑤まったく足りない

担当件数に関して、「まあまあ確保されている」「少し足りない」と感じている介護支援専門員が全体の約6割を占めているが、「十分に確保されている」と感じている介護支援専門員は全体の1割未満であり、「足りない」と感じている介護支援専門員は2割を超えている。

問5) 担当件数に対して十分にマネジメントを行う時間が確保されていると感じますか？…



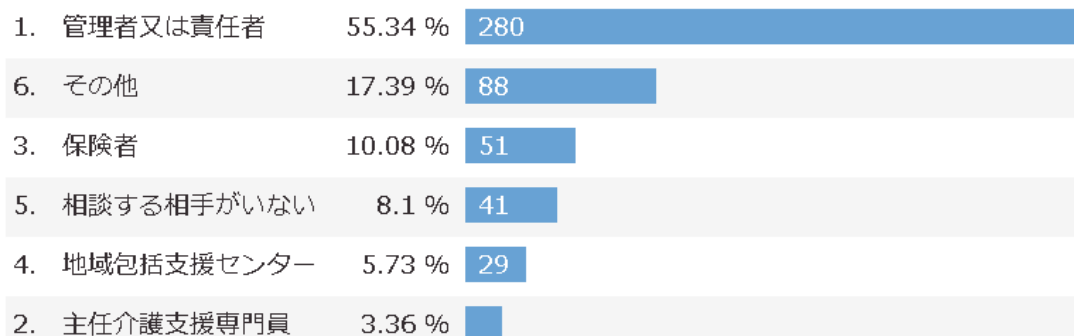
(6) 困ったときに相談できる相手の有無

問6) 介護支援専門員として困った事があった時、誰に相談していますか？

- ①管理者又は責任者 ②主任介護支援専門員 ③保険者
④地域包括支援センター ⑤相談する相手がない ⑥その他

困ったときに相談できる相手として、「管理者又は責任者」が全体の5.5割を占めている。次いでその他が多かったが、記述回答では「インターネットで調べる」「生活相談員に聞く」などの記載も多かった。1割未満だが「相談する相手がない」の回答もあった。

問6) 介護支援専門員として困った事があった時、誰に相談していますか？…



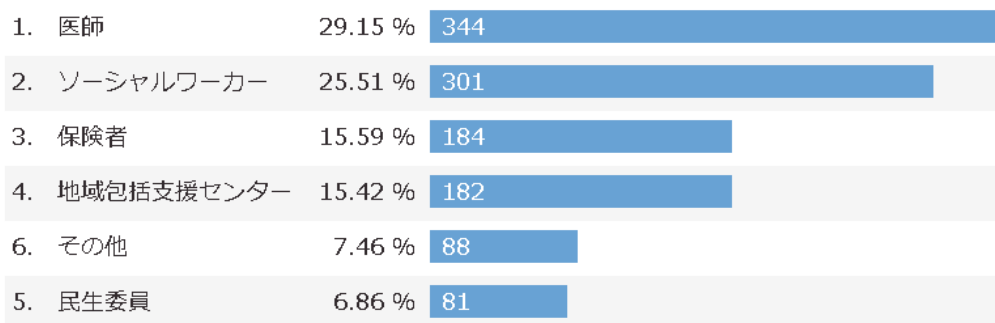
(7) 特に連携が必要と考える職種（機関）

問7) 連携する必要がある職種（機関等）は誰ですか？（複数回答可）

①医師 ②ソーシャルワーカー ③保険者 ④地域包括支援センター ⑤民生委員 ⑥その他

連携が重要と考える職種として「医師」が全体の約3割を占めている。地域社会資源である民生委員との連携は0.7割程度に留まっている。その他の回答では「看護師」「介護士」との連携を重視している記述が多かった。

問7) 連携する必要がある職種（機関等）は誰ですか？（複数回答可）…



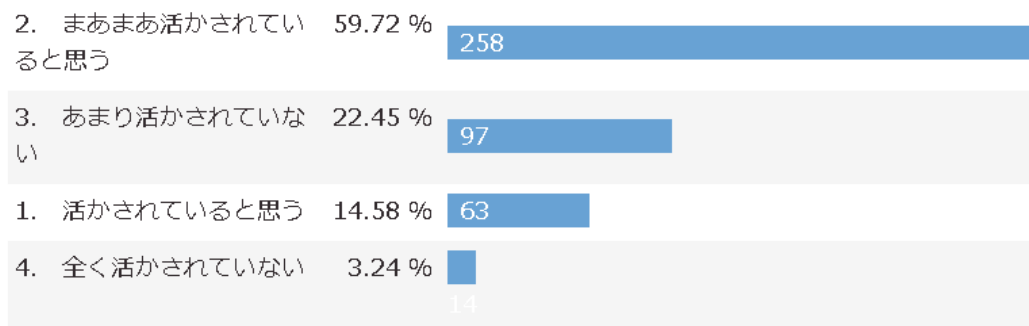
(8) 作成したケアプランが現場で活かされているか

問8) あなたが作成したケアプランは現場で活かされていますか？

①活かされている ②まあまあ活かされている ③あまり活かされていない ④活かされていない

作成したケアプランが現場で「活かされている」「まあまあ活かされている」と感じている介護支援専門員が全体の約7.5割を占めていたが、残りの約2.5割の介護支援専門員は「あまり活かされていない」「全く活かされていない」と感じている。

問8) あなたが作成したケアプランは現場で活かされていますか？



(9) 介護支援専門員として“やりがい”“喜び”を感じる時

問9) 介護支援専門員や計画作成担当者としてやりがいや喜びを感じる時はどのような時ですか。

- ①多職種との連携がスムーズにできたとき ②医療との連携が上手くいったとき
- ③本人や家族の方から頼られたとき ④支援の提案が受け入れられたとき
- ⑤困難事例が好転したとき ⑥他の職種の方から頼られたとき
- ⑦運営指導や監査で指摘を受けなかったとき ⑧その他

介護支援専門員としてのやりがい・喜びを感じる瞬間として「本人や家族に頼られたとき」「他職種との連携がスムーズに行えたとき」で5割を占めている。本人・家族の支援が円滑に実施できていることが実感できるときにやりがい・喜びを感じるができる。

問9) 介護支援専門員や計画作成担当者としてやりがいや喜びを感じる時はどのような時ですか？（上位3つを選んでください）…



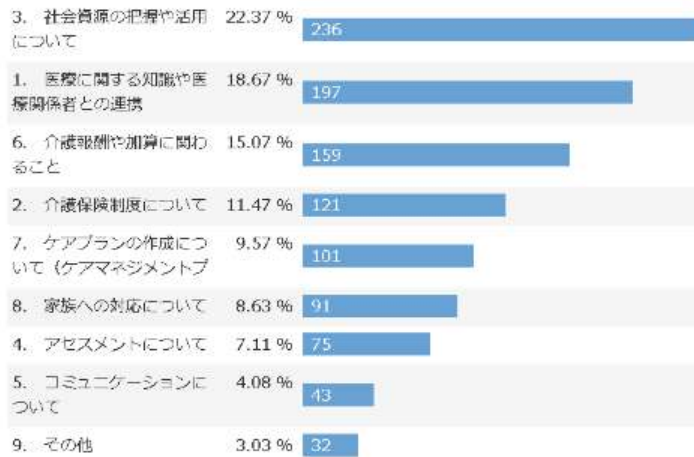
(10) 業務の中で自身に足りないことや苦手を感じていること

問10) 業務の中で、自分に足りないところや苦手だと感じることはどこですか。又はケアマネ業務の中で、今困難に感じていることはなんですか。

- ①医療に関する知識や医療関係者との連携 ②介護保険制度について
- ③社会資源の把握や活用について ④アセスメントについて
- ⑤コミュニケーションについて ⑥介護報酬や加算に関わること
- ⑦ケアプランの作成について（ケアマネジメントプロセス）
- ⑧家族への対応について ⑨その他

介護支援専門員として足りないと感じていることや苦手と感じていることは、「社会資源の把握・活用」「医療関係者との連携」が全体の4割を占めている。その他の回答では新しい知識・技術を取得するための研修に参加する時間的余裕がないことも多くの介護支援専門員の悩みになっている。

問10) 業務の中で、自分に足りないところや苦手だと感じることはどこですか？又はケアマネ業務の中で、今、困難に感じていることはなんですか？…



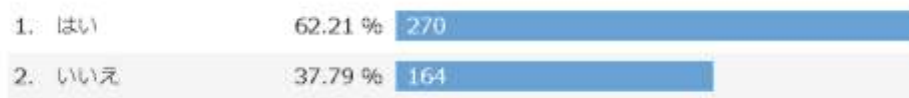
(11) 法定研修以外での研究参加の機会

問11) 法定研修以外でスキルアップに関連する研修等には出席・参加をすることができますか？

- ①はい ②いいえ

法定研修以外でスキルアップ研修に参加することが出来ている介護支援専門員は全体の約6割を超えたが、約4割の介護支援専門員は参加できていないと回答している。「いいえ」と答えた方からは、業務過多により研修参加に時間を割くことが難しいとの記述が散見された。

問11) 法定研修以外でスキルアップに関連する研修等には出席・参加をすることができますか？…



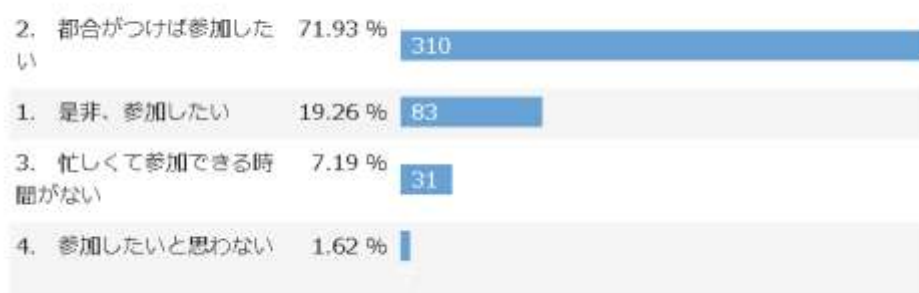
(12) スキルアップに繋がる研修があれば参加希望の有無

問12) 介護支援専門員のスキルアップに繋がる研修の機会があれば参加したいと思いますか？

- ①是非、参加したい ②都合がつけば参加したい ③忙しくて参加できる時間がない
④参加したいと思わない

スキルアップに関する研修機会が開催される場合に「都合がつけば参加したい」「是非、参加したい」で9割を占めており、殆どの介護支援専門員が参加を希望している。

問12) 介護支援専門員のスキルアップに繋がる研修の機会があれば参加したいと思いますか？…



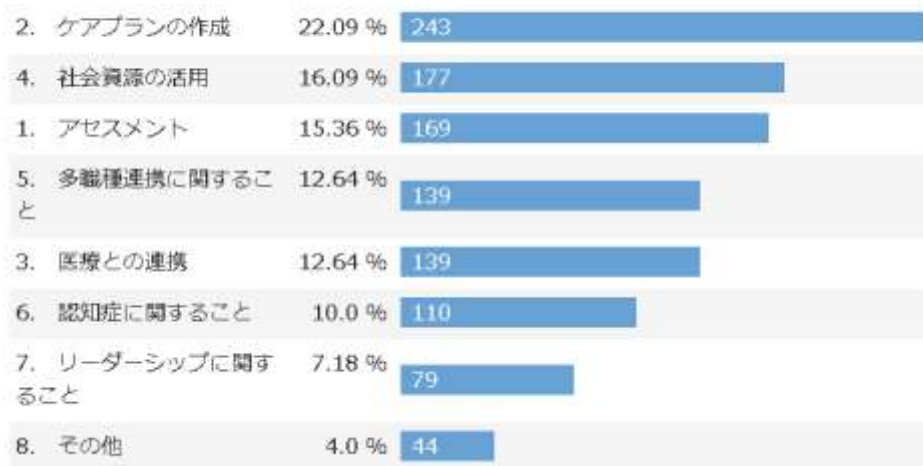
(13) どのような研修があれば参加したいか

問13) どのような研修があれば参加したいと思いますか？

- ①アセスメント ②ケアプランの作成 ③医療との連携 ④社会資源の活用
⑤多職種連携に関する事 ⑥認知症に関する事 ⑦リーダーシップに関する事 ⑧その他

ケアプラン作成が2.2割に次いで、社会資源の活用、アセスメント、他職種との連携、医療との連携、認知症に関する事、リーダーシップに関する事の順で多かった。その他の中には、加算に関する事や厚生労働省LIFEシステムについての研修開催の希望もあった。

問13) どのような研修があれば参加したいと思いますか？(上位3つを選んで下さい)...



(14) 事業所の介護支援専門員として取り組んでいること

問14) 当該事業所の介護支援専門員として意識的に取り組んでいることはありますか？

- ・在宅復帰、自宅に一回でも帰らせてあげたい。
- ・ご利用者、家族とのコミュニケーションをとりご本人の思う生活に近づけるプランに取り組む事。
- ・ケアプランの作成、利用者家族とのコミュニケーション、サービスの調整、関係機関との連携、情報の提供と相談、研修や勉強会の参加、地域貢献。
- ・ライフサポートプランの作り方。ケアマネ業務の月次の流れなど基本的なことを習いたい。
- ・利用者のケアプランを職員が見やすい所に保管し、時々ケアプランの確認しながら業務にあたっている。
- ・施設ケアマネであるため、現場主体のプランとなってしまう利用者、家族の意向が反映されにくいプランとなってしまうため、改善に取り組んでいる。
- ・LIFE提出情報、フィードバックとの整合性。
- ・入所者はもちろんですが、家族との積極的なコミュニケーションを心掛け、業務を行っています。
- ・自宅での生活ではなく施設で生活をされているため、利用者様やご家族に安心していただけるような支援方法を考えながら取り組んでいます。

- ・利用者や家族とのコミュニケーション／他部署との情報共有
- ・施設に入所したからと言って、自宅には帰れないという訳ではない事を、ご本人、ご家族に説明を行っており、短時間だけでも自宅に帰れるように、アセスメントを行い、ご家族へ説明を行っている。何か支援での困りごと、看取りへの意向、頓服薬などについて、その都度ケア会議を行うようにしている。
- ・介護保険の改訂に伴い業務量が増え、オーバーワークとなっている。タイムパフォーマンス等を考え、業務内容の改善と必要・不必要な業務の洗い出しを行っている。
- ・できるだけご入居者、ご家族とコミュニケーションをとる機会を作っている。
- ・地域との関わりや地域資源の把握。
- ・他のケアマネとの、情報交換・共有。
- ・支援相談員も兼務している為、介護業務には従事しないが、職員からの聞き取りだけに頼らず、できるだけ食事の時間やリハビリの時間、レクレーション活動時のご本人の様子などの観察を行い、自分の目でみて確認するように努めている。
- ・自立支援促進加算に伴い在宅復帰を目標としている利用者に対して自立支援計画作成し実施している。
- ・アセスメントの時に生活状況を確認し 3 ヶ月から半年の間の違いを考え プランを作成する時に生活の質と本人の意向を十分認識しながら最適とされるプランになるよう十分時間を取りながら作っています。
- ・地域や関係先との協力支援も時折行なっています。
- ・看多機であるためターミナルケアについて主治医や看護師と連携を取りながら、利用者や家族が悔いのない最期をむかえられるようにしている。
- ・現場スタッフが実施してくれるように、介護スタッフの忙しさや仕事の流れを意識してケアプランを作成する。
- ・出来るだけ、今のレベルを維持していけるようにと、その事に取り組んではいるが、現状は難しく、出来ていない
- ・法律で定められている事は漏れることないように気を付けている。
- ・事業所のなかで開催される法定研修すべてにおいての準備や研修の実施などを行っている。
- ・多職種との連携をスムーズに行って行けるように、意見を言って頂きやすいように心がけている。
- ・多職種との連携を充実させるため、普段より意見交換を言っている。
- ・現場の介護にも直接関わり、利用者様のできる部分を確認し、伸ばすことができるようなプラン作成を心掛けています。またアセスメントを行うときには、なるべく多くの職員の話を聞き、多方面からの意見を抽出するようにしています。ご本人、ご家族の意向を確認しご本人の状態と確認しながら、納得のいくケアプラン作成を行っています。
- ・他法人のケアマネとの懇親会や勉強会を定期的に行っています。
- ・現場スタッフとの関係づくり、スタッフを支えるための準備、声かけ。入居者との関係づくり。日々を共有していないと、なにかのときには返答できないため。せっかく御縁があって入居していただいているので、関わっていきたいです。
- ・認知症の方の支援、訪問業務、運営推進会議の参加。
- ・入居者の気分転換のため、外出支援に力を入れている
- ・ノーリフティングケアに昨年度より参加しているので、ノーリフティングケアを取り入れたケアプラン

を作成している。

- ・一日一回、全入居者の方と、コミュニケーションをとれるよう心がけています。
- ・相談員との職域の把握、相談員の教育ベッドコントロール、超強化型の維持の為、在宅復帰に向けての提案や自宅訪問の強化など
- ・LIFE 担当、BCP 関連に力を入れている。
- ・事務作業のみにならないように、現場が差支えない範囲で介助をさせて頂き、入居者様の状態を肌で感じるようにさせて頂いている。
- ・主には計画書作成を担当しているが、各種委員会等にも参加して、施設行事や事故防止などにも取り組んでいる。
- ・看取りも多いので、本人や家族に寄り添い対応できるように多職種でも連携しています。
- ・パソコンの前に座る事が多い仕事ですが、多職種からの情報だけに頼らず、自ら入居者様の元に出向き、動きを観察しお話しをして状態の確認をおこなっています。まだ介護支援専門員の仕事を始めたばかりで、入居の手続き等が重なり分からなくなる事も多いですが、2名の先輩介護支援専門員に指導を受けながら、日々出て来る新しい内容を学んでいます。先日行われた施設ケアマネの研修に参加させて頂きましたが、今後も自分の仕事に役立つ研修に参加させて頂きたいと願っています。
- ・利用者の状態等の把握について出来るだけ担当者と密に情報を共有している。
- ・特にこれと言っていないが、多職種との情報共有はline ワークスを活用しこまめに行っている。
- ・指定介護老人福祉施設であるが、状態の改善を行い、一時帰宅や在宅復帰が可能になるように支援することに取り組んでいる。
- ・小多機はケアマネジャーが1人なので、日々の業務を漏れなく行うことで精一杯です。
- ・現在、介護スタッフにもケアプランの作り方等について研修を行っている。ただ、居宅ケアプランを主な研修として学んできているので、専門性に薄いとは感じる。法定研修では居宅ケアプランの作り方が主なため、施設プランの専門性を高める機会を法定研修で得られると良いと思う。
- ・認知症ケア、パーセンセンタードケアの実践。センター方式の活用。
- ・グループホームのプランへ、日々利用者の方と接して気がついた事、些細な変化をアセスメントしてケアプランに取り込み、マンネリ化しないよう心がけています。
- ・年間目標を達成できるよう、施設にいて良かったと思える援助を行えるよう取り組んでいる。
- ・相談業務等に追われ、ケアマネジメントプロセスが疎かにならないように努めているのが現状です。
- ・出来ればお一人お一人に対してきめ細やかなケアマネジメントが出来ればと思います。
- ・多職種連携利用者、家族の必要時の代弁自立支援。
- ・毎月、月初めにスタッフと、ケアカンファレンスを実施している。管理者とは、意見交換を日々行って入居者様の支援に繋げている。
- ・利用者様のやりたい事、したい事を実現できるよう、家族・スタッフ全体で情報共有し取り組む。
- ・有料老人ホームのため出来るサービスに限界があるが、その人に必要なサービスを施設として提供出来るようにプランニングしている。
- ・ケアプランの作成時に「課題・問題抽出表」を作成し、利用者様の出来ていないところ＝問題点は何かを考え、他ケアマネの意見も聞きながらケアプラン作成している。
- ・モニタリング時には確認表にそって、満足度や困りごとや不安、福祉用具が適切か、居室内環境、本人

様の整容、病気の早期発見・対応の確認、不適切行為や虐待はないかなどの確認を行っている。

- ・利用者さん、ご家族と積極的に会話する機会を作る
- ・QOL の向上生活の質の視点についてその人らしく満足のいく暮らしができるように手助けをする事。
- ・LIFE (情報提供) については、手間ばかりかかってどうやって生かされるのかがわからない。とくに今回 (6 年 4 月) なぜ変更になったかまったくわからない。
- ・施設では、「専従」要件を外してほしい。今後の人手不足を考えると施設での兼任が必要になると思われるから。
- ・待遇をよくしてほしい 介護職の待遇が上がり逆転現象が起きているので、今後もケアマネのなり手がすくなくなると思うので。
- ・介護予防支援の指定ケアプランデータ連携システムふくおか元気向上チャレンジ参加。
- ・介護職員のように入居者様への介護業務を行うことにより、ケアマネジメントの精度をあげるよう努力しています。
- ・全てをわかりやすく丁寧に伝えることができる様に業務を遂行すること、ご利用のかたと取り巻く方々を把握しながら地域で助け合いができる様な居場所を作ること。
- ・必要と思われる支援と、見通しをたてて「できること」(主にマンパワーの問題)の兼ね合いがまだよくわかっていません。世論を聞きながら探っています。
- ・地域包括支援センター・役場等からの緊急での入所依頼は、断ることなく受け入れしている
- ・グループホームのため、心身の状態の急激な変化は見られないが、介護計画書の作成に関しては、6ヶ月毎に確実に見直しを行っている。
- ・グループホーム入所適応外の方の場合の介護相談等も行っている。
- ・ご家族や医療機関との連携、入居者様とのコミュニケーションケアプランを元に実施の確認。
- ・サービス担当者会議の開催の調整を行い、家族参加も積極的に促し、本人の状態を共有していくこと。
- ・地域に向けた相談窓口 (介護よろず相談) を開いている。(掲示板にて) まだあまり問い合わせはないですが…。
- ・生産性向上の取り組み
- ・利用者とのコミュニケーションを取るために、デイルームには積極的に顔を出すようにしている。送迎の車に乗り、家族と話す時間を持つ。
- ・毎月ケアカンファレンスを行う。
- ・他の事業所との連携やネットワーク作り。困難ケースなども積極的に受けて職員のスキルアップ、頑張っていて良かったと思える支援をサポート、指導を行っていただけるように心がけています。
- ・施設ケアマネ業務と人が足りない時にワーカー業務を手伝っています。
- ・家族も含めた多職種の意見を広く取り入れていく。本人の想いを少しでも実現できるプラン作り。
- ・利用者の QOL の質の向上を目指し、生活の中に楽しみを提供できるよう取り組んでいます。
- ・ケアプランと実際のサービス内容、支援内容が違わないようにする。
- ・利用者が穏やかに生活していける様日常のコミュニケーションを取り、ケアプランに活かしていく。
- ・認知症を患っている利用者様が穏やかな気持ちで過ごすことが出来るよう、毎月の会議でケアについて毎回話し合い、ケアの統一をはかっています。困難事例の対象者様の BPSD が消失されたときは、事業所のケアが向上したと職員全員が達成感や介護に対する自信をつけるよう取り組んでいます。

- ・入居者と家族（KP）との意向について、また、家族間での意向の統一や連絡方法等について。
- ・介護職員へケアプランを理解してもらうための研修を毎月施設内で行っています。
- ・ケアプランを見て現場のスタッフが行動しやすいよう、具体的なプランを作成する。
- ・グループホームの介護主任も兼務しており、介護の現場に入り利用者様の一日の様子や状態をみて、ケアプランに落とし込んでいる。また、ユニットミーティングにてケアプラン内容を他介護職員に周知し意見交換をしている。
- ・施設内で過ごされる方のプランなので画一的になりがち。その方らしさがあふれるプラン作成が出来るよう努めている。
- ・ICT を使用した業務軽減の提案。ペーパーレスの推進。ケアマネと介護記録と連動していない別々のソフトを使っているため業務が煩雑。紙（手書き）の多さあり。
- ・ケアプラン内容を実践して頂くため介護職との情報交換とコミュニケーションを図るようにしている。
- ・ライフマップを活用したアセスメントを行い、プランを作成する。
- ・日々の様子を確認し、スタッフと連携をはかり対応すること。
- ・ご利用時に利用者様と毎回会話をし、表情や身体状況を観察し、自宅訪問時にご家族に報告する。
- ・なるべく現場の職員へケア状況を確認および本人とのコミュニケーション時間を持つ。家族と情報共有できるよう連絡をしている
- ・介護スタッフさんと一緒に介護をして情報をもらっています。
- ・他職種との連携はもちろん、施設入居者のアセスメントをしっかりと行い、その方に必要なケアプランの作成を目指しています。ご家族の希望などもできるだけ聞き取りを行いたいと考えています。
- ・確実に担当者会議を開催してケアプランを更新する。
- ・家族や対象利用者からの聞き取り とくに施設満足度を高められるような取り組み。
- ・職員に対して、課題整理総括表を活用して、意見を引き出している。
- ・繰り返しかかわることで、入所者との信頼関係を作っていくことスタッフの話を丁寧に聞き、鵜呑みにせず確認、観察すること、プランに反映させていくこと。
- ・入居者様の身体面や精神面が日々変化に対応出来るように、アセスメントを行い安心安楽な生活が継続出来る様に業務に取り組んでいます。
- ・ハラスメントについての勉強会
- ・なるべく多く介護の現場に入ってご利用者様の状態や気持ちを把握すること。
- ・日頃からご家族、かかりつけ医と関わりを持つこと。
- ・ケアプランの支援内容をスタッフが周知できるように働きかけをしています。ケア会議などで検討、確認を行っています。
- ・入居者様が年齢をだんだん重ねられ、重症化し、看取り等に関わる事が多くなり、連携（医療・家族・支援方針）がかなり重要となってきた。
- ・入所者様の小さな要望をひとつずつ、叶えてあげる中で、楽しみや、意欲に繋がっていくようにする。
- ・業務改善オムツの見直しや経口摂取維持の取り組み、ポジショニング。
- ・細かい状態観察と必要なケアの見直しが出来よう介護福祉士との情報を密に行う
- ・ケアマネジメントに関わる書類作成やマニュアル作成。経験年数少ない職員が多い為、介護士としての困りごと全般をきいている。不安があっても「大丈夫。」と思って欲しい。

- ・法人内の他のグループホームケアマネの相談に乗っている。ケアマネ業務の困りごとは根拠をもって説明。ケアマネとしての困りごとは傾聴して、自信も持ってもらう。私は法人内のケアマネを2か所経験している。市が異なるとケアマネとしても変わる事もある。ケアマネの所長も4年経験している。それらの経験も伝えている。
- ・入居者様、ご家族様との信頼関係の向上と適合したケアプラン支援内容を作成する。
- ・在宅復帰を目指し、利用者とその家族とのコミュニケーションを大切にしながら、個々の生活に近づけるケアプランを作成すること。
- ・ケアマネジャーとしての業務として、月次の流れや基本的な知識を学ぶこと、施設のケアプランを職員が見やすいように保管し、業務の中で確認すること。
- ・現場主体のプラン作成では、利用者や家族の意向が反映されにくいいため、改善を図る必要があります。利用者の生活の質を向上させるためには、積極的に家族や他部署との情報共有を行い、現場での観察を通じて、利用者の状態を把握することが不可欠です。
- ・介護保険の改訂に伴う業務量の増加に対しては、効率的な業務改善を提案し、地域資源の把握や多職種との連携を強化しています。
- ・ターミナルケアにおいては、主治医や看護師との連携を密にし、利用者が悔いのない最期を迎えられるよう努めています。
- ・現場の介護スタッフとの関係づくりや、利用者との信頼関係を大切にするとともに、認知症ケアや自立支援計画の作成を行い、家族の意向も確認していくこと。
- ・自宅復帰を支援するために、アセスメントを通じて利用者の生活状況を確認し、最適なプランを作成しています。
- ・ケアプランに基づいたサービス提供が行われるように、日々の業務の中で情報交換や意見交換を行い、職員のスキルアップを図っています。
- ・ケアプランの作成時には、具体的な課題や問題点を抽出し、他のケアマネジャーと意見を交換しながら、きめ細やかなケアを目指すこと。
- ・業務の中では、利用者とのコミュニケーションを重視し、アットホームな職場環境を維持しつつ、研修や勉強会を通じて専門性を高めることにも力を入れています。
- ・業務改善のためには、介護職員との連携を強化し、日々の業務の中での情報共有やコミュニケーションを大切にしています。これにより、利用者の生活の質を向上させるための支援が実現できるよう、全体的なサービスの充実を図っていくこと。

「事業所の介護支援専門員として取り組んでいること」の記述回答では多岐に渡る内容を記載いただいた。それぞれの立場で事業所内の介護支援専門員としての役割を果たされている。事業種別や各施設・事業所において介護支援専門員としての役割や立場は異なっているが、利用者の生活の質を高める為に、ケアマネジメントを通じて日々実践に取り組んでいることがわかった。